

第3章

No.01

有明海とラムサール条約

いのちを育む「豊穡の干潟」を守る取り組み



有明海の大きな干満差がつくる広大な干潟は、珍しい生き物たちの住処や、渡り鳥たちの休憩所となっています。国際条約で守られた干潟もあります。

調べてみよう？
どうして干潟には珍しい生き物がいるんだろう？



有明海の夕日 有明海は佐賀県・福岡県・長崎県・熊本県に囲まれた内湾性の海です。

日本一の干満差と豊かな干潟

有明海の面積は、内湾性の海としては東京湾や鹿児島湾より広いですが、水深は浅く平均20mで、最も深いところは約165mです。

その特徴は、5~6mにも達する日本一の干満差と広大な干潟です。また、筑後川や嘉瀬川をはじめ、多

くの河川から豊かな栄養分が流れ込んでいます。この干満差と栄養分によって多様な生き物たちが生息しています。

有明海では干満差を利用した「あんこう網漁」「ガタ羽瀬漁」「手



ムツゴロウ

(鹿島市商工観光課提供)

有明海のシンボルです。エラと皮膚の両方で呼吸ができるので、干潟をはいまわり、藻類を食べます。オスが盛んに求愛のジャンプをする光景は、有明海の風物詩となっています。



ワラスボ

(中村安弘氏提供)

凶暴そうな歯、退化した目、鱗が少ないグロテスクな姿ですが、食べるとおいしいといわれます。ハゼの仲間で、煮付けや干物など珍味として食されています。



ミドリシャミセンガイ

(佐賀県水産課提供)

三味線に似た形をしており、地元では「女冠者」とも呼ばれます。「カイ」と名前についていますが、貝とは異なる触手動物です。体のつくりから「生きている化石」と呼ばれています。



(佐賀市環境政策課提供)

「東よか干潟」にやってきたシギ・チドリ類

シベリアやアラスカなどで繁殖したシギやチドリ類が、オーストラリアやニュージーランドへ南下する途中に「東よか干潟」で休息とエネルギー補給を行います。

押し網漁などの独特の漁法が、伝統的に行われてきました。干潟には、ムツゴロウやワラスボ、ミドリシャミセンガイなどの珍しい生き物も見られます。有明海に面した人たちは、これらの海の幸を、感謝と親しみを込めて「前海もん」と呼んできました。戦後は海苔養殖が発達し、日本一の海苔生産高を誇っています。

県内2か所がラムサール条約に登録

有明海の干潟は、渡り鳥の休息や採食の場としても重要な中継地となっています。春や秋の渡りの季節、干潟では、ハマシギ、ズグロカモメなどのシギ・チドリ類がいつせいに飛び立つ姿や集団で餌をついばんだり休息したりする姿が見られます。また冬は、ツクシガモなどのカモ類が数多く飛来します。

干潟の環境を守る目的で、2015(平成27)年、佐賀市の「東よか干潟」(登録面積2.18km²)と鹿島市の「肥前鹿島干潟」(登録面積0.57km²)が、

「ラムサール条約」に登録されました。「ラムサール条約」とは、1971(昭和46)年に制定された国際条約です。この条約は、①湿地の生態系を守ること②湿地から得られる恵みを人々の生活に持続的に利用(ワイズユース)すること③登録された湿地を通じて環境保護について学習し、交流することの3つを大きな目的としています。

シギ・チドリ類飛来日本一の「東よか干潟」

「東よか干潟」は有明海の最も奥にあり、佐賀市の東与賀干拓の南側に面しています。

この干潟は、クロツラヘラサギ、ズグロカモメ、ツクシガモなどの絶滅危惧種やハマシギなどの準絶滅危惧種を含む、多くの水鳥の渡りの中継地や越冬地となっています。環境省の調査によると、シギやチドリ類の飛来数は日本一となっています。また、「東よか干潟」は塩生植物「シチメンソウ」の国内最大の自生地としても知られています。

干潟周辺では、ボランティアによる清掃活動やシチメンソウの保全活動が行われてきました。また、地元の小・中学生を中心とした「ラム

COLUMN

「海の紅葉」と呼ばれるシチメンソウ

シチメンソウは干潟に生え、塩水に耐える植物であることから「塩生植物」と呼ばれています。秋には鮮やかな赤に変わるため「海の紅葉」と呼ばれます。色が変化することが七面鳥の顔のようなため、その名が付けられたと言われています。



(佐賀市環境政策課提供)



(吉田嘉美明氏提供)



(鹿島市商工観光課提供)

鹿島ガタリンピック

地域おこしの一環として始まり、30年以上続く人気イベントに成長しました。



(佐賀市環境政策課提供)

ズグロカモメ

全長約32cm。ユリカモメより少し小さく、くちばしが黒くて短いのが特徴です。頭が黒いことから「頭黒(ズグロ)カモメ」と呼ばれています。

サークルクラブ」が、干潟の生き物の調査や野鳥観察の活動に取り組んでいます。さらに、「干潟よか公園」には、「東よか干潟」の魅力を紹介するガイドスルーム「**紅楽庵**」があり、パネルや大型モニターで干潟の環境や生き物を紹介しています。この他、「干潟よか公園」の海岸堤防には望遠鏡が設置され、干潟に飛来する野鳥を観察することができます。

干潟に親しめる「肥前鹿島干潟」

「肥前鹿島干潟」は、鹿島市の塩田川と鹿島川の河口部に広がる干潟です。東アジア地域におけるシギ・チドリ類の貴重な渡りの中継地や越冬地となっています。秋から春にかけて、約40種類のシギ・チドリ類が見られ、中でもチュウシャクシギなどが観察されています。特に、チュウシャクシギの個体数は日本有数です。

「肥前鹿島干潟」では、有明海の干潟の価値を広く知ってもら

うため、小学生や市民を対象に、毎年、野鳥観察会が開催されています。

また、1985(昭和60)年から毎年、干潟の運動会「**鹿島ガタリンピック**」が開催されています。海外からも参加者があり、大人から子どもまで干潟に親しみ、学ぶ機会となっています。また、近年は修学旅行などで県内外から多くの人々が訪れて干潟体験を楽しんでいます。

学校の取組

【鹿島ガタリンピックボランティア】

■佐賀県立鹿島実業高等学校

鹿島実業高等学校では、生徒会役員が中心となってボランティア活動を行っています。



調べて書いてみよう!

気に入った有明海の生き物を描いてみよう。



出かけてみよう!



道の駅鹿島 (鹿島市音成甲 4427-6)

道の駅鹿島内にある「鹿島市干潟展望館」がラムサール拠点施設になっています。

TEL 0954-63-1768 / 営業時間 9:00~17:30

(鹿島市商工観光課提供)



検索してみよう!

ラムサール条約

有明海 干潟の生き物

有明海 漁法

シギ・チドリネットワーク

